

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:高木啓吾

所属:香川県立善通寺養護学校

記録日: H30年 2月10日

キーワード:願いの実現の方策を見つけ、実行する。

【対象児の情報】

・学年 中学部 3年

・障害名 脊髄髄膜瘤、水頭症（知的障害・肢体不自由・病弱）

・障害と困難の内容

- ・下半身と右手に麻痺があり、移動は電動車いすを使用している。
- ・自分で排尿することは難しいので、定期的に導尿を行う必要がある。学校では2回（デイサービス利用の際は3回）学校看護師が行っている。
- ・ひらがなやカタカナを書くことはできるが、速度は遅く、バランスも悪く読みづらい文字になる。一方でパソコンやiPadはひらがなが五十音に配列されたキーボードを用いれば簡単な文章を記述することができる。
- ・学習態度は良好で、みんなの話し合いの場面では、良く発言したり、自分なりの意見を提案したりすることがあるが、提案したことをどのように実現するかまでは考えが及ばないことが多い。

【活動目的】

- ・当初のねらい
 - ・自分の希望を実現するための阻害要因を探る。
 - ・実現のための方策を身に付ける。
- ・実施期間 平成29年5月～平成30年3月
- ・実施者 高木啓吾
- ・実施者と対象児の関係 担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・生活のなかでよく言語による要求を出す。言語はやや不明瞭で聞き取りにくい場面もあるが、会話は十分成り立つ。また、周囲とコミュニケーションをとり、楽しむ場面もよく見られる。
- ・他者と関わることは好きである。面白かったことや家庭であったことなどを教師によく話す様子が見られる。一方で、質問をされると、うまく返せなかったり、黙ってしまったりすることもある。



《学習の様子》

- ・「修学旅行のあいさつをおもしろいものにしたい。」とか「国語の授業で行っている劇の配役はこうしたい。」といったように、本人なりに生活や授業での細かい希望があるが、実現するためには何が必要か、どのような準備が必要か、わからないことはどのように解決していけば良いかといった方策を具体的に考えられていないため、どのように実現していきたいかを、うまく説明できないことが多い。

○活動の具体的内容

実践① 思いの伝え方を探る

・発信された要求や願いは、どのような内容が多いのか、またその実現のためにどのような支援を必要としていたかが明確ではない。そのため、まずはどのように思いを周囲に伝えているかといったことを分析することが必要であると考えた。

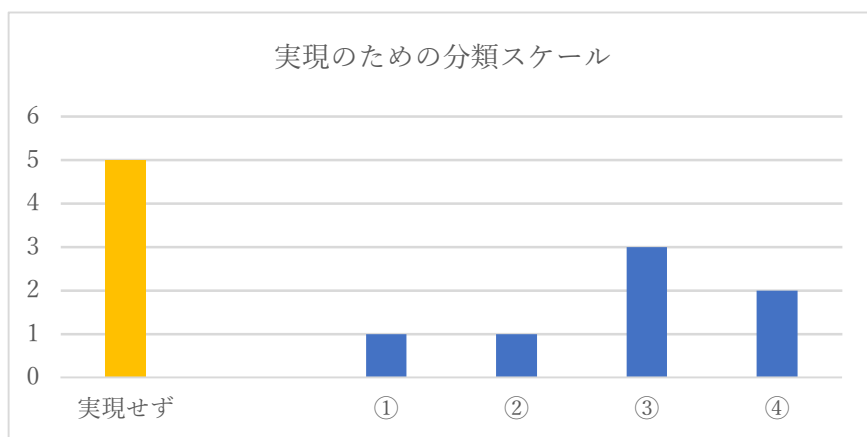
○思いを伝えることに支援を要したかどうか、また実現のために 支援を要したかどうかを分けて、上記の記録を分類する。

<「実現」分類のためのスケール>

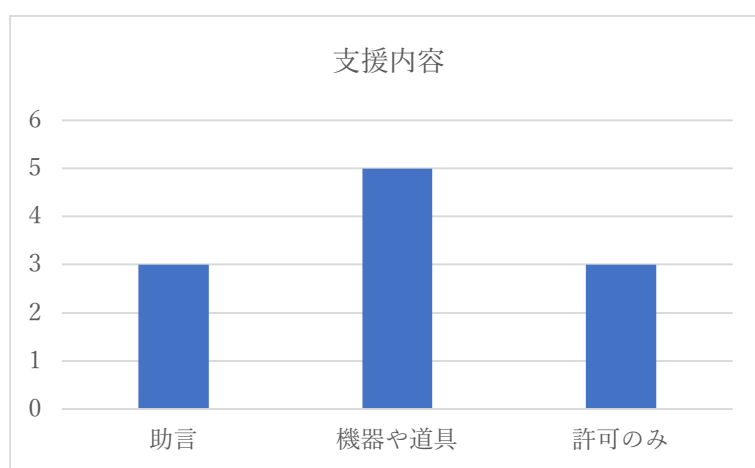
- ① 希望を支援者からの問いかけなどで聞き出し、実現のために支援を加えた。
- ② 希望を支援者からの問いかけなどで聞き出し、本人が自ら実行した。(教員は許可を与えるのみ)
- ③ 希望を対象生徒自ら発案し、実現のために支援を加えた。
- ④ 希望を対象生徒自ら発案し、本人が自ら実行した。(教員は許可を与えるのみ)

結果

| 分類スケール | 回数 |
|--------|----|
| 実現せず | 5 |
| ① | 1 |
| ② | 1 |
| ③ | 3 |
| ④ | 2 |



| 支援内容 | 回数 |
|-------|----|
| 助言 | 3 |
| 機器や道具 | 4 |
| 許可のみ | 1 |



・要求を出し、実現できたものは、何らかの支援を受けたものが多い。またその支援は機器や道具を用いたものが多い。

・実現できなかったものとして、離れた場所の様子を確認したいということが挙げられた。

・欠席時の学校の様子や、医療的ケアの際の教室の様子など、友達は今何をしているだろうか、どんな話をしているだろうかと言ったことが気になり知りたい気持ちがうかがえる。一方で、すぐにその状況を確認する手段が整備されていないこともあり、それらの希望は実現していない。

・要求があれば、担任に伝えることができているものの、具体的な方法を提案していることや、実現のために必要なものを自ら用意しようとする姿はあまり見られない。

・要求を出す相手は全て担任であった。

考察

- ・何が必要で、誰に頼んでといった実現のための道筋を考える場面はあまりなく、思いつかないことも多いことが考えられる。そのため、今後対象生徒が、希望を実現していくためには、必要な情報を集める手段を得ることも大切ではあるが、そもそも、必要なものは何か、それをどのように用意するのか、誰に依頼するのか、何を調べるのかといった、自分の希望について、整理することが必要ではないだろうか。
- ・今後、対象生徒の生活を支える要素として、支援を受けながらも、実現のためにはどのような方法があり、誰に頼むかと言ったことを、(手段を直接与えられるのではなく)自ら考え、実現していくことを主体的にどのように関わるかを学ぶことが重要だと感じた。

実践②-1 思いの実現の仕方を考える

・やりたいことを整理し、実現のためには、何が必要で、どのように解決していくのかを考えた。その際、本人が主体的に考えの流れを整理し、視覚化することができるようマインドマップを作成する活動を設定した。また紙に筆記するよりも簡単に綺麗に作成することができ、注目したいところを拡大して確認できるので、iPadでマインドマップ作成アプリ「popplet」を用いてマインドマップを作成した。



【マインドマップ作成の様子】

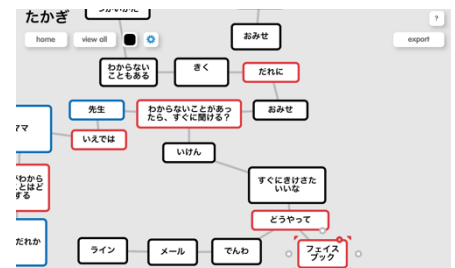
- ・以下が挙げられた願いの一例である。
 - ・iPadやパソコンを使う
それらを使って何をしたいかを考えていくと、、、
 - ・アプリを使って何かゲームをしたい。
 - ・ユーチューブで動画を見たい。
 - ・テレビ電話を使ってみたい。



そして、教師が使用している姿をみた経験から、テレビ電話を使い県外で働くお父さんに学校の様子を伝えたいということが願いとして挙げられた。

実践②-2 思いの実現の仕方を考える

・テレビ電話を行う方法として、教師が使用しているのを見た経験からiPadを使うことは思いついた。しかし、やり方がわからなかったので、操作方法をどのように知るかを検討した。マインドマップを作成してお店に聞くということを思いついたが、いつ、どのようにして行くかと考えた時点で悩んでしまった。そこから「電話で詳しい人に聞く」という方法を考えた。



【作成したマインドマップの一部】

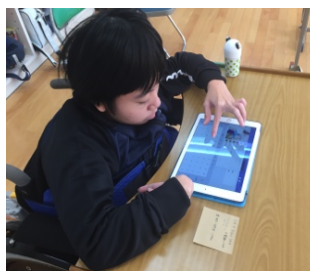
- ・機械に詳しい人として、対象生徒の小学部時代にお世話になったK先生に電話することを考え、教員の携帯電話から電話をかけた。なお対象生徒は、医療的ケアを要する生徒であり、日頃から導尿に行く際、担当の看護師に、校内専用のPHSで今から行く旨を伝えていたり、家庭でのスマートフォンの使用経験があったりしたため、概ねスムーズに使用することができた。
- ・電話をして、フェイスブックやライン、専用アプリでテレビ電話を使用することを聞いた。そのなかで、フェイスブックは保護者が利用していて、対象生徒は「あの青いやつね。」と発言するなど、細かい操作の仕方はわからないが、存在自体は知っていた。そのため、本人が「フェイスブックでやりたい。」と発言したので、その登録や操作方法を聞きiPadを用いて操作を実行した。
- ・「これでお父さんとお話できるね。」と言葉を掛けたところ、「わかったような、わからないような、、、」と

いう返答が返ってきたため、フェイスブックの通信機能を用いて、担任の携帯電話と実際に話して見て、ちゃんと繋がるか、声は聞こえるか、画面はどのように見えるかといったことを確認した。その際日頃 iPad を利用する際は、机にそのまま置いていたが、その状態で使用すると、自分の顔が映らない、という問題があった。対象生徒は「先生、持って置いて。」と言ったが、カバースタンドで対応する方法を紹介し、改めて通話してみると「大丈夫や。」と言ってその方法で対応することにした。

・紹介する授業は、自立活動の様子を紹介することにした。自立活動室の様子や、実際に使っているセラピーマットなどを写し、活動の様子を紹介することにした。(父親には事前に確認してかける日時を伝えていた。)

・実際に通話をする、自分で父親の携帯に発信し、自立活動室から授業の様子を紹介することができた。父親から「頑張っているんだね。」と言葉を掛けられ、対象生徒にも笑顔が見られた。

・一方で通話中に自立活動室全体を見せようと考えた対象生徒は少し考えて、少し離れた場所にいた担任を呼び、「ぐるっと写して。」と依頼した。



テレビ電話の方法を
詳しい人に
聞いてみよう。

聞いたことを
基にして実際に
操作しよう。

担任の先生と
練習してみよう。

お父さんと
話せました。

○対象児の事後の変化

・休み時間にパソコンをしたい時にも、「専用のキーボードを持ってきてほしい。」「表を大きくしたいけどどうしたらいいのかわかるか。」というように具体的な要求を出せるようになってきた。

・パソコンの操作に関することは機器操作が詳しい先生、進学予定の学校のことは以前その学校に勤めていた先生に聞くといったように、知りたいことや実現したいことについて誰に聞けば良いかを考え、自分から聞きに行く姿が見られた。

・一方で所属生徒の実態が難しい場面も多いが、何かをお願いするといった場面に対象となるのは教員ばかりであり、生徒同士で何かをお願いしたり、依頼したりする場面は見られなかった。

・本人はやり方を聞いて、実現したことについては、「ちょっと難しかった。」と答えていたが、わからないことは聞いたらいいかなと思った。」とも答えており、問題解決のための手段として認識できたのではないだろうか。

・美術での作品制作の際、自分が作りたい作品に近づけるために、イメージを伝えるだけでなく、どのように画用紙を切れば、良いか、飾りは画用紙か折り紙かどちらが良いと思うか、というようにアドバイスを求め場面もあった。

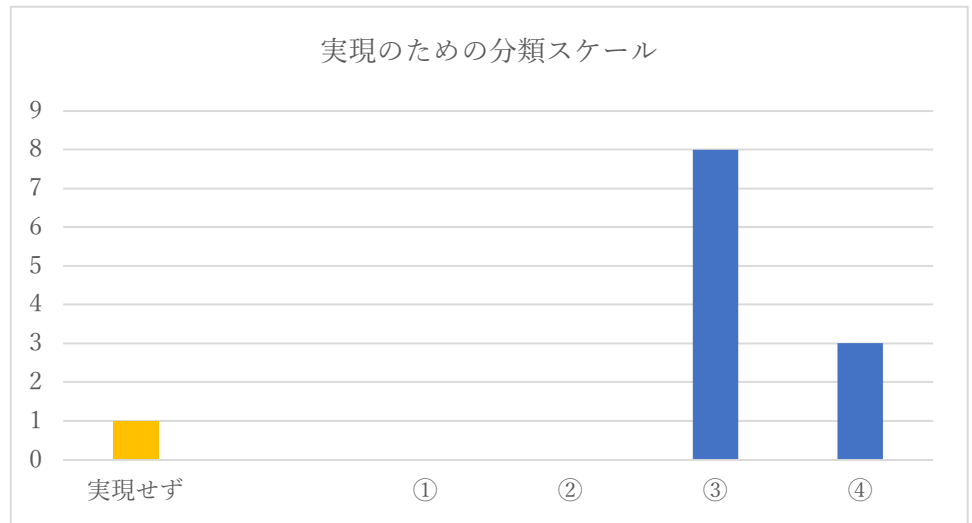
・3学期の校外学習は行ったことのある商業施設であったため、授業のなかで、「みんなに知っていることを伝えたいけど、どうすればいい。」と聞く場面があった。願いがあるが、解決方法が思い浮かばないときでも願いをただ言うだけでなく、どのように解決したら良いかをまず考えることができた場面であった。

→授業担当者より昼食は班行動になり、班で、店を決める活動が授業内であるため、知っていることをここで友達に教えてあげたらどうだろうと教えてもらったので、iPadで施設のホームページを見て、友達に紹介しようとする店を確認した。

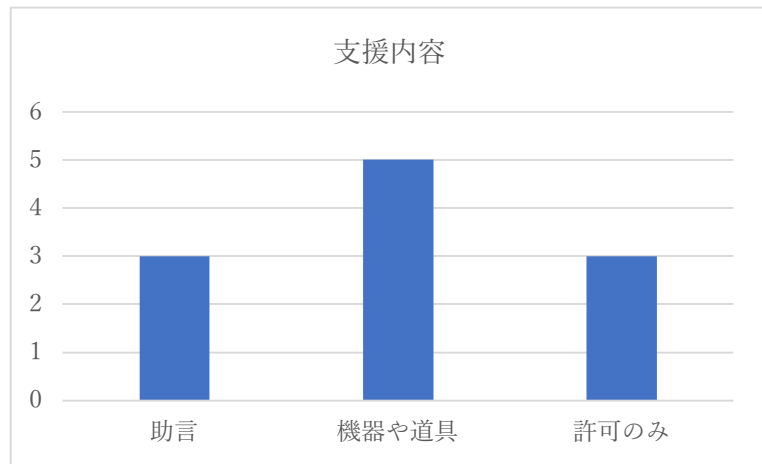
・「思いの伝え方を探る」で行った記録、分類を1月に改めて行った。以下がその結果である。

結果

| 分類スケール | 回数 |
|--------|----|
| 実現せず | 1 |
| ① | 0 |
| ② | 0 |
| ③ | 8 |
| ④ | 3 |



| 支援内容 | 回数 |
|-------|----|
| 助言 | 3 |
| 機器や道具 | 5 |
| 許可のみ | 3 |



- ・実現のための分類では、できるだけこちらからの働きかけはせず、生徒の発信を待つと言う姿勢をとったため、全て、対象生徒が発案したものとなった。
- ・実現のために支援を加えた項目の割合が増えている。
- ・支援内容のそれぞれの項目のバランスは以前と大きく変わっていない。
- ・担任以外の先生にも、願いを発信する姿が見られるようになった。

考察

- ・願いを表明する際に、「教室の窓に画用紙で書いてお正月の絵を飾りたい。門松とか、、、」「パソコンを次の休み時間に使いたいから（キーが50音順に並べられた専用のキーボードをクラスのパソコンに）繋いだままにして欲しい。」と言ったように具体的な案を同時に提案することがよく見られた。これらは、願いの実現のためにまず自分でその方策を考えて提案することができつつあるということではないだろうか。
- ・担任以外にも、実現のために近道だと考え、願いを発信する場面も出てきた。
- ・実現していないものも、現在調整中であり、今後実現していく可能性がある。
- ・隣の教室に遊びに行くことは、1学期は希望として、担任に発信し、許可を得る場面も見られたが、生活に慣れて、「隣の教室に行ってくる。」といったように、願いの発信から報告に形態が変わったものもある。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ・対象生徒は何か願いを実現しようとするとき、具体的な方策を考えるという意識が芽生え始めてきた。
- ・願いを実現するために具体的な提案ができるようになってきた。

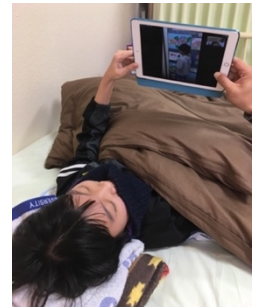
○エビデンス(具体的数値など)

・指導初期(6月～7月)のやりとりのなかでは、自分から何かをしたいといった表明は見られたが、「休み時間に何かしたい。」といったように漠然としたもので具体的な方策の提案はあまり見られなかった。そのほかの表明も漠然としたものが多く、どうすれば実現するかを聞いた際は沈黙したり、頭を抱えたりすることが多かった。

事例①(12月)

・4時間目に校内の作品展に、クラスで見学する予定があった。しかし登校後体調を崩したため、早退することになり、4時間目は保健室で保護者を待っていた。「みんなと見に行きたい。」と発言したが、「体の調子が悪くなくてもいけないし、みんなにうつすといけないから今日は我慢しよう。」と返すと「iPadで見られると思う。」と提案できた。

→養護教諭に確認して体調に配慮しつつ、フェイスブックの通信機能を用いて、見学することができた。



事例②(12月)

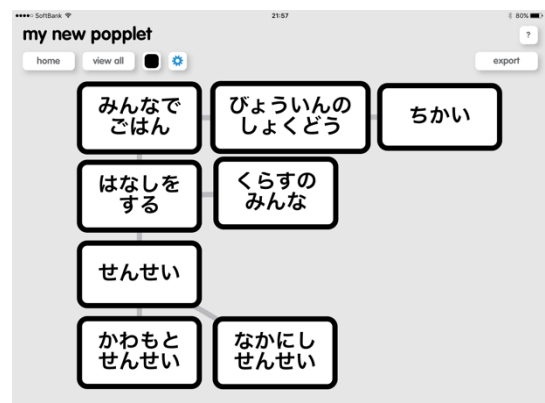
・校内の学習発表会の際、毎年恒例の教員バンドの演奏があった。本人は「お母さんが見たいけど今まで見られてないって言っていた。今回も時間が合わないみたい。後で見せたいから携帯(電話)かiPadでとって。」と提案することができた。

→学期末懇談の際に、本人なりの解説を加えながら、母親にその時の様子を見せることができた。

○その他エピソード(画像などを含めて)

・国語の授業で絵本を基にした劇を行なっている。学級でそれぞれの配役があり、楽しんで活動している。ある日対象生徒が、同じ学級のS先生に「劇をパソコンで打ったものを(パワーポイント:他の授業で使用経験あり)で作りたい。」と言った。S先生が詳しく聞いたところ、絵本の顔を学級の友達に変えて、絵本を再構成したいとのことだった。パワーポイントはiPadでも使えることを伝えると、iPadで作ることを選び、操作方法を随時確認しながら、作成している。担任である私が、「なんで私ではなく、S先生に聞いたの。」と聞くと「だって、S先生は機械のこと詳しいから。」と答えた。S先生は校内でメディア機器を担当する校務分掌に所属しており、機械の操作に詳しく、学習発表会での機器操作なども担ってきた。それらの様子を見てきて、やりたいことを具体的に考えて、何が必要か、さらにそれについて聞くのは誰が適切かを考えることができた場面であった。

・卒業を間近にしてクラスの同学年の仲間とみんなで食事に行きたいと考えた。実現するためにまず何が必要かを考えるためにiPadでマインドマップを作成して実現方法を考えた。取り組みの際に行った時よりもスムーズに、誰に聞くかを考え、実際に主任の教師に提案することができた。その際に行き先の案なども含めて自分の考えを言うことができた。



もちろんすぐに実現できるわけではないが、教員同士で確認して話し合うとして、現在調整中である。

→校外学習は年間の計画で決まっております、実現は難しいかもしれませんが、ただこのようなことをしたいと表明するだけでなく、まずは先生に確認が必要であること、担任の一存ではおそらく決めることができないこと、主任の先生や部主事の先生に確認が必要であろうことを考えることができていた。

またマインドマップ作成する際も取り組みの時は、こちらから質問したことに答える場面が多かったが、「N先生にも聞いた方がいいかなあ。」とつぶやきながら、作成を自分で進めている場面が見られた。

・取り組みでフェイスブックを活用したので家庭でも活用するためには、個人の携帯電話やタブレット端末の所持も選択肢のひとつであると考えた。保護者に提案を行なったところ、将来的には必要性があると感じており、間も無く高校生になることも考慮して、情報機器が高等部では修学奨励費の対象になるという情報の提供を行なった。

○家庭でのエピソード（保護者からの聞き取りより）

・見たいテレビがあった時に今までは〇〇が見たいというだけのことが多かった。見たいテレビを今やっているかを確認したり、テレビをつけたりチャンネルを自分で変えたりするためにリモコンを取るように求めたりする場面がよく見られるようになった。

・朝食後の服薬の際薬を飲みやすいように保護者がヨーグルトに薬を混ぜている。容器の端についたヨーグルトを取れなくても、必死に集めてそれでもうまくいかない時には困ってしまうということが多かったが、最近は祖母や母に「（スプーンで取りやすいように）集めて。」と自分から言うようになってきた。

○課題

・取り組みを通して具体的な提案ができ、そのための方策を考えることはできた。しかしまだ教員とのやりとりの中で質問や助言などの支援が必要なことが多く、また実現のための道具を準備するのは教員が行う前提のものであった。自発的に活動を始める、道具を準備しようとする（自発的に依頼する）動きがまだ少ない。それらの指導や環境整備が今後必要である。

・今回の取り組みで自分の願いや希望をまとめて発信していくことの経験はできたが、様々な願いに対して、実現の方法は様々である。今後もそのような機会をもっていくことが必要であろう。そのために来年度の進学先との情報交換の際に、取り組みの概要を説明するとともに、類似の取り組みを継続していただけるように依頼する。

・本実践の取り組みのように、願いを叶えるための要素を考え、それらをどのように実行していくかを検討することは、本人の将来の生活を少し豊かにすることにつながると考える。このような視点を家族も意識し、家庭でも対象生徒が願いを主体的に考え、実現していく場面が増やせるように、学校での実践を詳しく説明するなど、引き続き支援をしていきたい。